

2023 年 POTY 賞授賞者

(公社)日本分析化学会(JSAC)・液体クロマトグラフィー(LC)研究懇談会の POTY(Person Of The Year) 賞は、非研究面から LC 研究懇談会の運営に大きな貢献が有った人物に与えられる褒賞である¹⁾。

2023 年 POTY 賞受賞候補者の推薦に関する会告は、JSAC の機関誌「ぶんせき」誌 3 号 (2023、M3) と LC 研究懇談会のホームページに掲載され (推薦締め切り 8 月 31 日)、9 月 5 日に選考委員会が Microsoft Teams により開催された。その結果、三上博久氏 (株式会社島津総合サービス) により推薦された榎本幹司氏 (栗田工業株式会社) が、9 名の参加選考委員 (欠席委員 2 名) により満場一致で授賞候補者として選考された。この選考結果は 3 年 5 か月振りに対面式で 9 月 20 日に開催された 2023 年度第 6 回拡大運営委員会で協議され、榎本氏への授賞が正式に承認された。授賞題目は「リモート開催各種事業の円滑運営と対面開催に向けた新たな取り組みへの貢献」である。以下、授賞対象となった榎本氏の業績を概説する。

榎本幹司氏は、水処理、環境分野などを専門とする貴重な運営委員として、LC 研究懇談会において様々な活躍を行っている。コロナ禍の為、LC 研究懇談会の各種行事が中止或いは延期される状況下、Web 対応小委員長として例会等諸行事及び各種委員会のオンライン開催の実現に尽力した。即ち、2021 年 3 月の第 357 回例会より立ち上がった Zoom オンライン例会を始め、LC&LC/MS テクノプラザ、HPLC 講習会等の行事、及び各種委員会のオンライン化に、Web 対応小委員長として取り組み、大きな実績を残した。コロナ禍における所属企業の配置換えにより、小委員会メンバーが相次いで退任したにも関わらず、榎本氏は各行事のオンライン開催の実運用 (各種委員会及び例会のオンライン開催の段取り、例会講演要旨集取り纏めと参加者への配布、例会当日の裏方等々) に精力を注ぎ、2023 年 9 月迄、一度も例会に穴を開ける事無く継続的な実施を成し遂げた。更に、2023 年 9 月例会の対面実施が再開されるに伴い、オンライン開催で得られたノウハウを基に、要旨集のオンライン配布などの諸準備に取り組んでいる。又、各種委員会については Zoom から無料の Teams による開催へ切り換えると共に、例会前に現地開催される運営員会においては、遠方の役員が参加可能と成る様に対面/オンラインハイブリッド開催と言う新たなスタイルの実現に向けた取り組みを精力的に行っており、アフターコロナへのスムーズな移行に貢献を続けている。榎本氏のこれらの活動実績は、LC 研究懇談会の発展に多大な貢献を果たしており、変革の年 2023 年の POTY 賞に誠に相応しい。榎本氏が LC 分析士、LC/MS 分析士は勿論、環境計量士 (濃度関係)、土壤環境監理士、土壤環境リスク管理者、土壤環境保全士などの資格を有する事実は、氏が好奇心に溢れ、進取の気性に富む人物である事を如実に示している。2023 年 10 月から、新たにインボイス制度がスタートする。榎本氏はインボイス対応小委員長としても、水を得た魚の様に積極的な取り組みを展開して呉れている。これも又、心強い限りである。

なお、榎本氏の業績に関する詳細はLC研究懇談会の電子ジャーナル「LCとLC/MSの知恵」第7号（2023年12月15日発行予定）に掲載し、受賞講演と表彰・副賞の授与は第29回LC&LC/MSテクノプラザの初日（2024年1月18日、横浜市金沢産業振興センター）を行う予定である。

1) 中村 洋、ぶんせき、2022、130-131.

[LC研究懇談会・委員長 中村 洋]